

日本領土の野生柑橘に就て

田中, 長三郎
九州帝國大學農學部園藝學教室

<https://doi.org/10.15017/20737>

出版情報：九州帝國大學農學部學藝雜誌. 2 (1), pp.51-58, 1926-06. 九州帝國大學農學部
バージョン：
権利関係：

日本領土の野生柑橘に就て¹⁾

田 中 長 三 郎

(大正十五年五月二十日受領)

目 次

1. 柑橘屬果樹の分布
2. *Citrus tachibana* TANAKA
3. *Citrus depressa* HAYATA
4. *Citrus tankan* HAYATA
5. *Citrus taiwanica* TANAKA & SHIMADA n. sp.
6. 結論

1. 柑橘屬果樹の分布

ENGLER (1) (2) に據れば *Citrus* 屬植物の分布は [1] Himalaya, [2] 交趾支那, [3] Sumatra 及 Java, [4] Molucca 諸島及 Timor, [5] Celebes 東北海岸, [6] Australia 東海岸, 及 [7] 日本中國, 四國, 九州の七ヶ所に限定せるも, SWINGLE (9) (10) は Australia 産各種を *Microcitrus* 屬に遷し, 新に湖北省宜昌を加へ, 著者 (13) (14) は西藏 Mecon 河流域, 甘肅省内四川省境併に南印度, Ceylon, Celebes, Philippines, 馬來半島等を加ふべき事を論じたりしが, 猶其後の考査によれば Philippines には WESTER (17) の調査に據り *Citrus micaray* WEST. の如き特異種あり, 又 *Citrus macroptera* MONT. は Borneo にも産し; Lime (*Citrus aurantifolia* SWINGLE) は西 Madagascar にも及ぶ事等を知れり。²⁾ 即最も原始的の柑橘は *Citrus junos* SIEB. sec. TANAKA, *Citrus ichangensis* SWINGLE, *Citrus histrix* DC., *Citrus macroptera* MONT., *Citrus aurantifolia* SWINGLE の五種にして, 是等の種のみを以てするも Himalaya, Interior China, 東 Africa, 南印度及錫蘭, 馬來, Indonesia, Melanesia を覆ふ事を知る。然るに日本領土に對しては從來の智識淺薄にして, ENGLER の如きも日本産野生種の何たるやを明記せず, 又植物學者中 MAXIMOWICZ 及 FAURIE を除けば日本領土中 CITRUS 屬を論ずべき程度に於て採集せしものなし, 早田 (3) に至りて漸く臺灣より *Citrus limonelloides* HAYATA, *Citrus gaoganensis* HAYATA, 及 *Citrus depressa*

1) 大正十五年四月十一日農學會農藝化學會聯合大集會席上講演。聯合寄與(九州帝國大學農學部園藝學教室第 11, 宮崎高等農林學校植物關係學科教室第 5) 文部省自然科學研究補助金授與論文。

2) Africa 東岸 Abyssinia にも産すれども野生なりや否や猶疑問として茲に掲げず。

HAYATA の三野生種を報ぜられたるも、著者 (15) は既に其第一種を *Citrus limonia* OSBECK に合し、第三種を疑問種となしたり。而して第二種は其記文より判じて明瞭なる Citron (*Citrus medica* LINN.) と査定したりしが今次 (大正十四年十二月) の調査により其のアルビノ變種なるを確め、且其路傍に散在する狀大隅に於ける状態と類せる事より野生たる原案を否定すべきを知りたり。故に同種は今 *Citrus medica gaoganensis* n. comb. とすべきを知れり。又第二種に對する疑問も本論文記載の如く氷解せり。

2. *Citrus tachibana* TANAKA.

著者 (14) の既に記せる如くタチバナは薩摩、大隅、日向、土佐、紀伊等に分布せる本邦内地唯一の野生柑橘なるが、大正十四年春之を濟州島に獲(松瀬雄一氏送品：名稱山橘)、大正十五年春之を奄美大島に獲たり(大和村大和濱産、大庭秀景氏採品。)本種は著者 (11) 既に其の日本民族史上最も顯著なる在來品たるを證する史料として紀記萬葉の引據を例證せるも、田道間守の傳説に於ける輸入柑橘に非ざるの點に就きては猶附言するを要す。鳥居 (16) はタチバナの産する事より濟州島を田道の渡航せし常世國に充つるも、黑板 (5) は之を解釋して『右古傳説の構成に面白き參考とならん』となし、常世國は平壤附近樂浪郡地方なりと記したり。蓋タチバナは upright flower の意にして邦語に於ける Citrus fruits の總稱なる事アヘタチバナ (*Citrus Aurantium* LINN.), オノタチバナ (*Citrus junos* SIEB. SEC. TANAKA), ヒメタチバナ (*Fortunella* spp.) 等の名稱にても知らる。是我が native fruit にして田道間守とは關係なく、既に其の渡航以前に地名人名として存せし事疑なきなり。一方田道の輸入せしトキジクノカグノコノミは everbearing aromatic fruit の義なれば此名稱に該當するもの我國に於ては唯ダイダイ (*Citrus Aurantium* LINN.) あるのみなり。ダイダイは Himalaya 原産にして支那にては夙に藥用として栽培するも我國に於ける來歴明かならず、而して斯る顯著なる種の來由不明なる事は頗る怪しむに足る可く、蓋或は不老不死の仙果として之を田道の輸入に充つるを合理的なりと稱して可ならんか。

タチバナが次種シークワシャーと共に奄美大島に産する事は最も興味ある事柄にして、伊藤及松村 (4) は前者を *Citrus nobilis* LOUR. var. *spontanea* ITO et MATSUM. となし、後者を *Citrus nobilis* LOUR. var. *Tachibana* ITO et MATSUM. とせり、何となれば前者を果小なりと記し後者には明に其琉球名 “Suikwá-shá” を挙げ居ればなり。然れども此命名は頗る不穩當にして伊藤氏の採集地大和濱には兩者を産し、前者をタチバナと解せば後者の *Tachibana* は當らず、

何となれば是紅果薄皮の別種なる上、*Tachibana* なる變種名は既に牧野 (6) の前種に採用する所なればなり。

3. *Citrus depressa* HAYATA.

著者 (15) 既に論ぜる如くヒラミレモン *Citrus depressa* HAYATA の基準標本は唯一枚の不
完全なる sterile specimen なる上此の名稱の下に受領せし果實の標本は別物 (*Citrus limonia*
OSBECK) たりしを以て、爾來其追及を怠らざりしが今次 (大正十四年十二月) 蕃地の踏査を
以て本種が沖繩本島に産するシークワシャーと同一なるを確むるに至れり。本種
の原記文は外皮僅に 1 mm. とあれば本種を除きては斯の如き薄皮品なき故シークワ
シャーなる事疑なし、又果色の *luteo-flavescenti* とあるは未熟品を記せるにして
原著者の私信にも之を云へり。唯原記文の終に “resembles *Citrus limonelloides*”
とあるは misleading にして混亂の本となれるなり。

沖繩縣に於けるシークワシャーは正に我が本土のタチバナに相等しく是に關する民
謡及傳説頗る多きのみならず、萬葉に見る如き頸飾として女子の賞玩せし風習は
僅に二三百年前まで残存し居たるが如し。シークワシャーの意義は acid feeder,
acid giver にして果實を以て芭蕉布の洗濯に使用するを以て酸を供する意より
起りたる俗稱なり。其原名はクニブにしてクニブは恰もタチバナの如く沖繩に於
ける柑橘類の總名たる感あれど、著名なる『今歸仁のクニブ霜成のクニブ』云々の
俗謡に見る如く同島に最も多く産するシークワシャーに適用せらるゝ事多きなり。
クニブの語は疑もなく Hindustani の Nimboo 根に K を冠せるものにして¹⁾ Indo-Malay
の Limu (柑橘の總稱) も同語なり、然るに沖繩は馬來人の渡來多く²⁾ 右の名稱
と共に馬來半島、印度支那の特産柑橘 *Citrus nobilis* LOUR. (内地の九年母) をも
齎したるものにして現今羽地地方に大栽培あり、即クニブの名稱は本柑と共に薩摩
に入りてクニブとなり、京阪駿遠の地に到りて九年母と稱せらるゝに至れり、唯
沖繩のみ野生柑橘に對してもクニブなる總名を残存せるなり。

大正十二年十二月大庭秀景氏大和村産品によりてシークワシャーの分布奄美大島
に及べる事實を知りたるは極めて重要な発見にして、猶大島産シークワシャーの
脂葉は鹿児島高等農林學校に保存せらるゝを見る。其他最貴重なる河越教授の採
品を検するに其分布は沖之永

1) 中頭地方にては K に代るに F を以てシフニブと稱せり、國頭地方にては Kimbu とす呼べり。

2) フェーヌシヌマーウルイ (南島踊), ショジョーウルイ (猩々踊), アンガーモイ (美女舞) 等に馬來
舞踊の形骸を残存せるは其の適證なり。

良部島、石垣島、西表島、八重山群島中鳩間島等に及ぶ事を知り、又臺灣總督府中央研究所林業部腊葉館所藏標本によりて與那國島にも産するを知れり¹⁾、而し今回 ガオガンより 南庄一帯に分布するを知り其臺灣北部に達する事を證し得たるなり。

4. *Citrus tankan* HAYATA.

命名者(3)の本種を一獨立種たらしめし根據極めて薄弱の如く考へらるゝも、本種は截然たる一獨立種にして最も甜橙 *Citrus sinensis* OSBECK に近く、花梗多花なる事極柑 *Citrus deliciosa poonensis* TANAKA の如き Loose skin orange とは全然異れり。果實は甜橙の如き形狀を呈し瓢囊の形質等亦相似たるも全然其特異なる香氣を缺き、肉色肉質種子内被の色等異れり、往々果面疣状を呈する事あり決して甜橙に見ざる overgrowth をなす。其栽培分布は臺灣の外廣東省潮州、福建省漳州に及ぶも馬來其他の地には決して之を見ず、支那に於ても野生の根跡なきを以て恐らくは臺灣の在來種なるべし。蓋本種の如き高等形質の柑橘を野生なりと斷するは至難の事なれども、次種の如き高等柑橘にして野生状態 明瞭なるものゝ産する以上之を疑ふは更に困難なる可し、況や本種が蕃族の傳説と密接なる關係あるをや。

本柑橘は佐山(7)の示す如くタイヤル族其他各族殆ど共通の傳説たる二つの太陽征伐の途勇士の植えつゝ進みたりと云ふ Yuttari (蜜柑)にして蕃族には貴重なる有用果樹たり、今も猶蕃境人跡絶えたる所に本柑の點在するを見るは通常なり、即臺灣原住民族と本柑橘とは密接の關係あるを知る。

本柑の正名は年柑にして、桶柑と云ふは潮州に於ける極柑の異名蜜桶柑の誤用なる可し、潮州にては之を招柑と云ひ、廣州にては潮州柑と呼べり。

5. *Citrus taiwanica* TANAKA & SHIMADA n. sp.

樹は高 4.5 m. 幹は直立刺あり、枝は水平に擴り瘠長にして數少し、多刺。葉は疎に着生し大きく約 12×5 cm. 披針形にして鋭く漸尖し、質稍薄く芳香なし、葉柄長く翼は顯著ならざれども明瞭なり。花序は 1-4 花、腋生又頂生、花蕾は長き圓錐状をなし、萼殼斗状平滑裂片鋭頭筒部後皺起す、花冠白色直径 3 cm., 花絲多數二三體約 1-5 cm., 葯短し、花柱略々等長、長き棒状をなし子房柱頭共に扁球形なり。

1) 宮古にも産ありてユーガマ フメズと稱し、等しく芭蕉布の洗濯に用うと聞けど未だ標品を検せず。

果は扁球形, deep chrome (RIDGWAY III), 6×4.5 cm., 頂端時に多少突出し極細油胞あり, 外皮稍厚く $1/2$ cm. 革質内層帯黄色, 室數 9-12, 整齊, 外縁不規則に丸く内縁極て尖り断面長き纖維を伴ふ, 肉瓢密にして軟く色 yellow ochre (RIDGWAY XV) 極酸苦味を帯ぶ。種子稍大きく不正長方形顯著なる細條あり色 straw yellow (RIDGWAY XVI), 内被 charaza 部の色は紅紫色, 白色多胚あり。

Type tree: 臺灣新竹州 竹南郡南庄紅毛館, 駐在所より約 600 間, 250 尺以上。海拔約 1000 尺。(發見者 湯本矢太郎氏)

著者は大正十三年五月始めて果實標本を島田氏より送附を受け, 又同年四月二十五日採集の花葉標本及寫眞を得, 次で大正十四年三月再び果實標本を受領し, 終に同年十二月十日該樹を實驗する事を得たり。是より少しく先同年十一月十八日桐野正雄氏は同一種をガオガン附近萱原に採集したりしが其浸液標本は士林園藝試驗場に於て實驗し同一種たるを決定せり。湯本氏の云ふ所に據れば本種は明治四十年頃南庄附近に點在し居たりしがイチキ林の伐採と共に切倒されたりと云ふ。現在に於ては極めて稀少なるものゝ如し。

本種は島田氏 (8) 之を南庄ダイダイと呼べる如く最もダイダイ *Citrus Aurantium* LINN. に類し極めて高等形質を具ふるものなり。Himalaya には二大高等柑橘甜橙及ダイダイを野生するも臺灣には前者に類する桶柑と後者に最も類似する本種とを産するは極めて重要な事實なり。

本種はダイダイに比して葉の更に長き事, 萼の無毛なる事, 果稍小さく且扁き事, 果面油胞の細微なる事, 果色肉色遙に薄き事, 砂瓢細緻にして相組合ふ事, 種子の稜細かき事等の差あり即之を新種と認め臺灣の特異種となせり。蓋し Philippines の *Citrus micaray* WESTER と共に最も稀少なる種にして柑橘の分種學上最も貴重なる資料たり。後種も亦長葉柑橘たるが枝梢葉肋に有毛なるを以て全然別種たり, 其の詳細の性状に至りては今猶不明なり。

6. 結 論

1. 日本領土の第一野生柑橘はクチバナ *Citrus tachibana* TANAKA in Bul. Sci. Fak. Ter. Kyu. Imp. Univ. 1 no. 1: 31, 1924 にして其分布は紀伊・土佐・日向・大隅・薩摩・濟州島・奄美大島等なり。
2. 日本領土の第二野生柑橘はシークワシャー *Citrus depressa* HAYATA in Icon. Pl. Form. 8: 16, 1919 にしてヒラミレモンは其異名なり。本種の分布は奄美大島・沖之永良部・沖繩本島・石垣島・西表島・八重山群島中鳩間島・與那國島及臺灣北部等なり。

3. 桶柑 (即年柑) *Citrus tankan* HAYATA l.c. p. 26 は甜橙に近き臺灣在來種にして野生状態に生育するを見る。臺灣以外に於ては對岸支那に栽培を見るも原始的状態に於て存する事なく、其他の地には全然栽培すらし。
4. 以上の三種は孰れも民族傳説と深き關係あり、即其原始的存在の證たり。
5. 臺灣北部に於て新檢出の野生柑橘南庄ダイダイ *Citrus taiwanica* TANAKA & SHIMADA n. sp. はダイダイに最も近き一新種にして長き葉と、扁き中形果と、革質油胞細密なる外皮と、濃黃多酸の果肉を以て特長となす。現時は稀少にして僅にガオカン及南庄の二ヶ所に於て發見せしのみなり。
6. 本研究に據りて柑橘屬果樹の地理學上日本西南部・濟州島・沖繩列島・及臺灣を明瞭なる其郷土として加ふる事を得たり。

追 報

本稿完成後山口縣萩町越ヶ濱字笠山に於てクチバナの野生發見せられたりとの報を得たり (史蹟名勝及天然紀念物 1 No. 3: 90, Mar., 1926) 又興津園藝試驗場に於て大正十四年十一月十六日谷川利善氏採集の枝葉果實の浸液標品を檢する事を得たり。最も興味ある點は本品は全く濟州島産のものと同しく外皮厚く室數多き型にして或は南方型の type と分ちて variety を創設するに如かずと考ふるも實査の上確報すべし。本追報に就き資料を與へられたる白井光太郎先生及谷川利善氏に深謝す。

典 據

- (1) ENGLER, A.—Ueber die geographische Verbreitung der Rutaceen, im Verhältniss zu ihrer systematischen Gliederung. Separat a. d. Abhandl. d. Kgl. Preuss. Akad. Wiss., Berlin, 1896. 27 pp., 3 pls. 1896.
- (2) ——— Rutaceae, in ENGLER u. PRANTL, Naturl. Pflanzenfamilien. III, Abt. 4 u. 5, p. 95-201. Leipzig, Engelmann, 1897.
- (3) HAYATA, B.—Icones plantarum Formosanarum nec non et contributiones ad floram Formosanarum. vol. VIII. Taihoku, Gon't. publ., 1919.
- (4) ITO, T. & MASTUMURA, J.—Tentamen florae Lutchuensis, pars 1. in Journ. Coll. Sci., Tokyo, vol. 12. 1899.
- (5) 黑板勝美。大正十四年十一月七日京都發私信
- (6) 牧野富太郎。日本野生のミカンの記。in 日本園藝會雜誌 No. 75, p. 2-3, 1 pl. 1896.
- (7) 佐山融吉, 大西吉壽。生蕃傳説集。臺北, 杉田書店, 1923.
- (8) 島田彌市, 石塚正義。柑橘栽培講義。新竹州農會, 1925.

- (9) SWINGLE, W. T.—*Citrus ichangensis*, a promising, hardy, new species from southwestern China and Assam. *in Journ. Agric. Res.* vol. 1 no. 1, p. 1-14, 1 pl., illus. 1913.
- (10) ——— *Microcitrus*, a new genus of Australian citrous fruit. *in Journ. Wash. Acad. Sci.*, vol. 5 no. 16, p. 569-578, illus. 1915.
- (11) TANAKA, Tyôzaburô. Citrus fruits of Japan, with notes on their history and the origin through bud variation. *in Journ. Hered.* vol. 13, no. 6, p. 242-253, illus. 1922.
- (12) 田中長三郎。日本の柑橘と其の來歴。*in 理學界* vol. 9 no. 9, p. 18-27, illus. 1912.
- (13) ——— シーホルド採集日本産柑橘標本に就て。*in シーホルド先生渡來百年記念論文集*。長崎、同記念會、中節 p. 58-69, 1 pl. 1924.
- (14) ——— 世界の主要柑橘類。*in 九州帝國大學農學部學藝雜誌* vol. 1 no 1, p. 20-31. 1923.
- (15) ——— 廣東 Lemon に就て。*ibid.* no. 3, p. 107-126, 1 pl., illus. 1924.
- (16) 島居龍藏。日本周國民族の原始宗教。ed. 2. 東京、岡書院, 1924.
- (17) WESTER, P. J. [citrus] *in Phil. Agric. Rev.* vol. 10. no. 4. 1917.

WILD CITRUS OF THE JAPANESE TERRITORIES.

(Résumé)

Tyôzaburô TANAKA.

(Joint contribution from the Horticultural Institute, Kyushu Imperial University, and Phytotechnical Institute, Miyazaki College of Agriculture.)

The wild *Citrus* is hitherto very imperfectly known from the Japanese territories, though this region is generally believed to be one of the native homes of this important genus of Rutaceae. The author has repeatedly reported that *Citrus tachibana* TANAKA is native to Japan proper, covering the southern coasts of provinces Kii, Tosa, Hyûga, Ôsumi and Satsuma. Recently, its southern limit of occurrence was found in the island of Sanbok (Amami Ôshima), where the second wild species begins to appear. It was lately discovered that the same species (possibly a variety) occurs wild in Nagato province and in Querpert Island (Saishûtô).

In the main island of Luchu (Okinawa), a very remarkable wild species is known under the name of Suikwâshâ, and through the closer examination of Formosan Citrus, this was identified by the author to be *Citrus depressa* HAYATA, first described from Gaogan, Taihoku province. This second wild species was later found to distribute all over the Luchu Archipelago south of Sanbok. Noticeably, this species is connected ethnologically with the inhabit-

ants of the island, just as the first species does with the forefathers of Japan proper.

In Taiwan, *Citrus tankan* HAYATA is found in the myths of aborigines, and it does occur in the woods where they make use of it. It is not found in South China in any degree of primitive state, but is rather extensively cultivated for shipping purpose.

There is another distinct species growing wild in the forests of Gaogan and Nanshō (Shinchiku province), which is here described as a new species, *Citrus taiwanica* TANAKA & SHIMADA n. sp. This species is nearest to the sour orange, but is very distinct with its remarkably long leaves, medium-sized flat fruits with finely dotted leathery skin, and very acid deep-yellow pulp.

Citrus gaoganensis HAYATA, reported wild from Gaogan, is nothing but an albino citron escaped from cultivation, and may preferably be called *Citrus medica gaoganensis* n. comb.

(Paper presented before the Joint Session of Scientific Agricultural Society and Agricultural Chemistry Society, held at Tokyo on April 11, 1926.)
